

きょういく さど

令和3年1月28日
第74号
佐渡市教育委員会
学校教育課

コロナ禍における教育の転換 ～ 教師の学びは子どもの成長～

佐渡総合教育センター所長 羽二生 裕

新しい年を迎えましたが、全国的にはまだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が収束いたしません。そうした中で3学期のスタートとなりました。今後もしばらくの間は、日常の教育活動だけでなく、学校行事についても内容や方法を検討しながら実施していく必要があります。

さて、この4月より中学校においても新学習指導要領が全面実施となります。このコロナ禍において、文科省では一人一台端末整備の「GIGAスクール構想」を、本年度中に実現させることを目指しています。今後、私たち教師は、学校での授業や生活、教育活動等の中で一人ひとりの子どもたちの「情報活用能力」を更に育てていく必要があります。子どもたちが自分の力で（友達と協力・協働しながら）ICT機器等を適切に活用して情報を得たり、それらの情報を整理・比較したり、分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりする情報活用能力を育てる授業づくりを、私たち教師は日々の授業の中で、子どもたちと共に実践していくことが大切です。

これからの時代、子どもたちがICT機器をツールとして使い、新たな発見をし、自分の考えが変容していく喜びを感じ、自分自身の創造力を更に広げ、深めて、そして発信・共有できる「学びの力」を兼ね備えた佐渡の子どもたちを、私たち教師は育てたいものです。子どもたちのこれからの「未来を生き抜く力」は、今の学校での授業にあります。この教育の転換期、佐渡の子どもたちのために共に歩んでいきましょう。

今年度の訪問を振り返って

下越教育事務所 指導主事 本間 英一

1 プロジェクト支援訪問について

今年度は、学力向上、授業改善に関わる内容で佐渡市教育委員会及び各校から延べ23回の要請をいただきました。折しも新型コロナウイルスの感染拡大が起きました。コロナ禍の授業研究の在り方についても、各校で御配慮いただきましたことに心より感謝申し上げます。

教育委員会の要請による訪問は、今年度より中学校区の枠を外し、3年をかけて全ての小中学校を訪問します。1日日程で全校授業参観、学校評価に関わる面談、授業公開・協議会が行われました。また、各校からの要請による訪問では授業公開・協議会を基本に行われました。

全ての学校が、自校の学力実態や指導面の課題を丁寧に分析し、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて真摯に取り組み着実に成果を積み重ねていることを実感しました。

また、今年度の訪問では「学習評価」に関わる内容についてもお話をさせていただきました。新潟県では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて「学習と指導と評価の一体化」に取り組んでいます。今一度『学習評価の在り方ハンドブック』（文部科学省）、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）、『学習評価のあり方』（県教育庁義務教育課）等の資料を熟読し、児童生徒の学習改善、教師の指導改善に向けた確実な取組をお願いします。

2 学力向上専門監配置事業（英語）について

2年目を迎えた英語学力向上専門監事業では、昨年度に引き続き専門監の定期的な訪問指導と全ての中学校における公開授業と協議会、情報交換を行いました。

島内英語担当教員を2つのグループに分け、2年間で延べ26回の授業公開を行います。同一教科で研修をする機会が少ない中学校現場において、互いの授業を見合い、協議を行ったり情報交換を行ったりする絶好の機会となりました。先生方の積極的な取組に心より感謝申し上げます。今後、2年間の取組が成果となって表れるものと確信しています。

「わたしをかんガエルノート」の活用を

教育指導主事 本多 アヤ子

先日、新穂中学校で行われた立志元服式で、目標の一字に「鮭」という字を書き、「わたしは鮭になりたい。」と発表した生徒がいたそうです。その生徒は島を出ても、将来、鮭のように生まれ育ったところ（佐渡）に帰って地域に貢献したいという想いでこの字を選んだと聞きました。佐渡の子どもたちで、この生徒のように想っている子どもはどのくらいいるでしょうか。佐渡市がキャリア教育に取り組み始めて7年目を迎えます。結果が見えるのは、まだ先のことですが、生まれ育った故郷を誇りに想い、成長していく子どもに育ってほしいです。

さて、新学習指導要領では、特別活動の中に一人一人のキャリア形成と自己実現を目指したキャリア・パスポートの取組が示されています。キャリア教育の充実には特別活動の学級活動を要としつつ、総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科における学習、個別指導としてのカウンセリング等の機会を生かし、学校の教育活動全体を通じて実施することが大切です。

佐渡市では、キャリア・パスポートの取組として今年度から「わたしをかんガエルノート」を作成し、児童生徒が将来の生き方を考えるときに自分の歩みを振り返ることが出来るようにしました。このノートは佐渡市キャリア教育のイメージキャラクターである「かんガエル」をもとに作成しました。1学年5枚以内で、目的は、①ポートフォリオとして記録を残し振り返る、②自分の目標や思いを振り返り活用する、二つです。具体的に綴じるものは、1年間の目標や振り返りプリントなど、個々の取組や成長がわかるものが望ましいです。

進級、進学するときはこのノートを中学校・高校まで引き継いでいき、自分の成長を見つめる道標としてほしいです。



先生方の思いと生徒との間の橋渡し

教育指導主事 大谷 直治

1、2学期事故報告数

令和	元	2
交通	2	9
傷害	47	31
非行	26	24
いじめ	77	59
疾病	4	2
不審者	22	41
虐待	12	12
家出	2	3
その他	5	8
合計	197	189

表のとおり、今年度2学期までのいじめの事故報告は昨年度より減りましたが、低レベルを含めると、167件から217件に増えました。各校におけるいじめの積極的な認知、未然防止・即時対応力向上の証左と考えます。

さて、佐渡市では6校に「心の教室相談員」を配置し、主に児童生徒の心の悩みに寄り添い学級復帰の支援を行っています。今年度は小学校にも配置しました。昨年度の相談延べ人数は5,056人、1校1日当たり9人です。

相談員から次のような報告が届いています。

○「嫌なことを言われ、集団で避けるような態度をとられた。学年部の先生方に伝えてもよいかを確認した上で対応した。直ぐには収まらなかったが、本人は先生方に話を聞いて理解してもらっただけでも、苦痛が和らいだと話してくれた。」

○「A子は先生に話したところで内容が面倒だから、状況は良くならないとため息をついた。私は『そんなことはない。先生たちが必ず解決してくれるから』と励まし、その後改善された。」

報告の中には、相談員の矜持としての標題の言葉もありました。この学校は「クラスで何かあればすぐに生徒が情報をくれたり、先生方が生徒の情報を適宜提供して下さったりする雰囲気のある学校」でもありません。学校には、児童生徒・保護者と関係する方々をつなぐ総合力が求められています。

学力向上数学プロジェクトの取組

佐渡市の課題である中学校数学の学力向上の取組として、佐渡市教育委員会では昨年度から「学力向上数学プロジェクト」を実施しています。今年度は来年度から完全実施となる新学習指導要領に対応するために、県立教育センター指導主事を講師として招き、公開授業を基に「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業の在り方について研修を行いました。

